

第11回 やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議  
議事要旨

日時：令和2年5月29日（金） 14：00～15：20

場所：八代市鏡コミュニティセンター 大集会室

■やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議 委員（敬称略）

|               |         |           |
|---------------|---------|-----------|
| 八代市           | 副市長     | 田中 浩二（会長） |
| 八代市市政協力員協議会   | 会長      | 徳田 武治     |
| 八代市商工会議所      | 会頭      | 竹永 淳一     |
| 八代市商工会        | 事務局長    | 山崎 俊明（代理） |
| 八代森林組合        | 代表理事組合長 | 西坂 栄樹     |
| 一般社団法人DMOやつしろ | 事務局長    | 下田 勝英     |
| 熊本県県南広域本部     | 総務部長    | 佐崎 一晴     |
| 中九州短期大学       | 教授      | 川井 健次     |
| 熊本高等専門学校      | 教授      | 田中 裕一     |
| 株式会社 肥後銀行八代支店 | 支店長     | 田中 俊浩     |
| 熊本中央信用金庫      | 理事総務部長  | 松高 逸夫     |
| 連合熊本県南地域協議会   | 事務局長    | 花岡 久美子    |
| 株式会社 エフエムやつしろ | 代表取締役   | 吉住 一郎     |

（欠席）

|              |         |       |
|--------------|---------|-------|
| 八代地域農業協同組合   | 代表理事組合長 | 田島 幹雄 |
| 八代漁業協同組合     | 代表理事組合長 | 滝川 和徳 |
| 熊本第一信用金庫八代支店 | 支店長     | 三上 英吾 |
| 八代市保育協会      | 会長      | 橋本 守  |

<配付資料>

会議次第、出席者名簿、席次表、事前質問及び回答

資料ア 八代市総合戦略の効果検証について

資料イ、ウ 令和元（2019）年度地方創生推進交付金事業及び地方創生拠点整備交付金事業に係る効果検証（資料ウは概要版）

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 会長挨拶

#### 4. 議事

##### (1) 八代市総合戦略の効果検証について

- ・資料ア 説明（企画政策課）
- ・本資料は、「総合戦略」と「地方創生交付金事業」の効果検証について、流れを示したもの。
- ・令和2年度は、第2期総合戦略の策定があるため、併記している。

##### (2) 地方創生推進交付金事業及び地方創生拠点整備交付金事業の効果検証について

- ・資料イ、ウ 説明（事務局）
  - 海外クルーズ船寄港を活かした観光・物産プロジェクト
  - 八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業
  - 八代市健康交流のまちづくりを目指したヘルスツーリズム構築事業
  - コミュニティビジネスによるしごと創生・地域活性化プロジェクト
- ・本資料は、令和元（2019）年度に国の交付金を活用して実施した3つの事業と、平成29年度に実施済みの拠点整備事業について、行政内部で各事業の効果検証を行い、事業実施による成果や課題、それらを踏まえた今後の事業の方針について取りまとめたもの。
- ・事前質問に対する回答を、事業担当課から説明した後、事業に関する質疑や意見交換を行う。その上で後日、事業評価を賜りたい。
- ・なお、委員の皆様に行っていただく事業評価は外部検証結果として取りまとめ、本資料に掲載のうえ、市ホームページ等での公表を行う予定。

#### — 事前質問及び回答 —

- ・配布資料「事前質問及び回答」に従い、事業担当課より回答及び補足説明を実施。

#### — 意見交換 —

### ■海外クルーズ船寄港を活かした観光・物産プロジェクト

- 委員：「食と農の景勝地」の認定に向けて取り組まれていると、条件が厳しくて、まだ申請に至っていないという説明がございました。県南広域本部にも農林水産部がありまして、この件について聞いてみましたら、特に何か話があるわけではないみたいな事だった。担当が変わって等あるかもしれませんが、私たち県南広域本部も一緒に取り組みをさせて頂ければと思っておりますので、色々ご相談等、お話し頂ければと思っております。
- 会長：はい、その節はよろしくお願ひします。
- 委員：事前質問の項目で一言、付け加えさせていただきます。事前質問項目の3の7「目標値の達成は厳しいものもあるのではないかと」というお尋ねした意味は、もし、事業的、状況的に、今年度の状況的に非常に難しいと考えていらっしゃるような場合は、他に有望な事業とか、そういったものがありましたら、有効な方に回して頂くという事が可能であるか、ご検討頂くと良いのではないかと、素人ながら思いましたので、このようなことを尋ねさせていただきました。ありがとうございました。

○会長：はい、ありがとうございます。事務局から答えはありますか。事業の振替的なことはできるのではないかということですかね。もちろん、調整はあるんでしょうけど。検討いただければということでもよろしいですか。

## ■八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業

○委員：事前質問で、アンケートの結果、「5割以上は町内に希望する職種がないと回答している。」ということで、例えば事業の背景・目的としての内容ですので、このアンケートを取ったのは事業が始まった時なのか、いつなのかなと思っているところと、もしこれが始まったころのアンケートの結果であれば、現在はどんな風に思われているのか、今、アンケートを取られているのかどうかわかりませんが、現在はどうかというところを思いました。それと、資料の11ページのところで、ツナガルインターンシップのところ、これは成果と課題というところで、一番目の成果のところ、学校側との信頼関係も構築できているということが記載されています。信頼関係の構築はとても良いことだと思います。これを先ほどの説明の中では、高卒の就職者が減少しているというお話を頂いております。何か、原因というか考えられることはあるのでしょうか。親御さんとか、どうしても学校の方が県外の大手とかそういうところを薦めておられるのか、ちょっとわかりませんが、2点をお願いします。

○会長 今の2点を担当課の方からよろしいですか。

●商工・港湾振興課 1点目にご質問を頂きました、アンケートの結果がいつ頃かというところで、このアンケート結果が平成27年の人口ビジョンを策定した際のアンケートになってございます。現在はといいますと、現在もですね、この年代の約6割が市外に流出しているという現状がございます。1点目のお答えは以上とさせていただきます。2点目の方ですが、学校との信頼関係ができている、その反面、実際の高校からの就職者数が減っているという現状についてなんですけれども、実際、インターンシップを行う中で、根幹となっております「八代圏域雇用促進センター」と学校側との関係性はだいぶ、構築できてきているのですけれども、やはり高校生が出て行くところに、ひとつ進学というのがありまして、進学の流出率が本市では大体4割強程度で流出がありまして、そちらが減っている要因だと考えております。以上、お答えとさせていただきます。

○会長 はい、よろしいですか。他にご意見等ございましたら、お願いします。

○委員：A3の資料の7の指標の6377という数字なんですけど、私、昨年度、少し関わらせて頂いて、感想を持っておるんですけども、この数字がかなり急激に上がっているの、少し、無理もしているのではないかということを感じております。どうしても課題解決型となりますと、事業所様と学校側と両方ともですね、努力しないといけないですし、これだけの数を急にやると、かなりクオリティも下がるかなと思います。いろいろ仕事の手を止めて頂かないといけないですしね、一生懸命やられていると思うんですが、資源には限界というものがあると思いますので、頑張り方といいますか、そういうものも、数字の達成だけではなくてですね、考えた方が、若い学生にとっても、よろしいのではないかなという風に感じております。よろしくをお願いします。

○会長：担当課の方から何かお答えはありますか。

●商工・港湾振興課：はい。ご意見、ありがとうございます。実際、数値が伸びている中で、その中で、実際、問題といいますか、受入れる企業であったり、生徒を出される学校側からの、悩みであったり、苦情じゃないですけども、そういったものがないか、ということ、八代圏域雇用促進センターの方には随時確認をしております、苦情ということではないんですけども、事業所様によっては、

一定期間であればいいんですけども、2回も3回も続いて受入れをすると、やはり、企業様の事業自体に負担がくるというようなお問い合わせも頂いていますので、そこはですね、十分、今後注意しながらですね、やはり有意義なインターンシップとなるように、より充実したプランを作っていきたいと考えております。

○会長 よろしゅうございますか。他に。

○委員：雇用促進センターの代表理事におととい就任した関係で、一言、言うとかなんといかんなど思っています、ちょっと補足させていただきます。昨年のインターンシップがKPIが上がってますけれども、学校側の理解が得られたということ、それと、企業様から沢山応募して頂けるようになったということ、この2つの要因が非常に強いと思います。それがですね、結局、就職者数に繋がっていくかいかないかというのは、これはですね、インターンシップが増えて、就職者数が増えるまでには、相当時間が掛かると思って貰わないと、まずは、インターンシップ、これを増やすことに一生懸命頑張ってくれたという風にお考え頂かないと、ここから先ですね、就職者数を増やすためには、賃金の差であるとか、高校生が一度八代を離れてみたいと思う気持ちであるとか、個々に色々な問題が有る訳ですね。そういう問題も含めて解決していかなければならないわけですから、フレッシュだけの力では、なかなか難しいであろう。私はこの4年間、フレッシュと一緒にやってきました。あと1年しかありませんので、この1年間はなんとしてでも、1名でも多く就職者数を増やすことは、1番大事なことと考えております。ただ、先ほども言いましたように、この結びつきまでは、さらに長い道のりがあるということだけは、ご理解頂きたいと思います。

○会長 はい、ありがとうございます。他にございませんか。

○委員：雇用促進センター、フレッシュさんは、非常に頑張っておられるという風に思いますが、あと1年ということで、最後に令和2年度の取組のところで、フレッシュの自走化に向けた財源確保というところがございます。今、現在、いっぱいですね、ここに書いてあります通り、実績のとおり、企業をいっぱい回られて、一生懸命頑張っておられますが、何せ見といてですね、人員が足りないような気がしております。そのようなところは、これから自走化に向けてですね、自走化に向けた場合、財政的には人員が少ない方がいいんでしょうけども、これがいっぱい声を掛けまわっておられますから、その対応的に人員が少なくてできないということになったら、苦情等あると困るんじゃないかなという風に思っていますので、そこのところをこれからどういう風に考えておられるか。

○会長 担当課より、可能な範囲で回答をお願いします。

●商工・港湾振興課 今後の人員の関係につきましてですが、実際ですね、今、ここに予算を計上しております2,600万、この半分が国からの国庫補助金と、残り半分が1市2町からの負担金で賄われているんですけども、今まで、周知関係、学校との信頼関係、企業様との信頼関係の方に尽くってきておまして、それらがやっとなんか結びだしたかなというところで、今後は、周知からまた違った形の取り組み等を考えながら、そこにどういったスキルを持った人材が必要か、そこも考慮しながら人員配置の方は考えていく必要があるのかなという風には考えております。財源がないからといって、人を減らすとか、そういったところは極力無くして行って、実際、八代圏域に実績を残してもらおうセンターにしていきたいと考えております。以上、お答えとさせていただきます。

○会長 はい、よろしいですかね。時間も迫っておりますので、3事業目の方に移らせて頂きます。

## ■八代市健康交流のまちづくりを目指したヘルスツーリズム構築事業

- 委員：この事業は、最初、良く分かりませんでした。ふっと湧いたような事業で、周りのコンセンサスが、民間のですね、コンセンサスが取れてなかったように、特に商工会議所、それから、協議会、経済界の方もコンセンサスが取れてなかったような気がしています。それは、それとして、これからですね、非常に、時代的には大事な事業だとは思いますが、もう少し民間の人たちを巻き込んだ取り組みをして頂きたいなあという風に思っております。意見です。
- 会長：はい、ありがとうございます。担当課、何か、お答えございますか。
- 観光・クルーズ振興課：ご意見、ありがとうございます。今、地域を巻き込んだというところで、頂戴致しました。今回、前年度が初年度ということでございましたので、若干地域との関りが少ない感じがあったかと思えます。今年度、2年目を迎えますところから、実際に、コロナの影響はございますが、前年度、絞ってきました40のプログラム案を踏まえてですね、今年度、おそらく後半くらいからになるとは思いますが、地域を巻き込んだ民間ツアーなどを展開していきたいというところは想定しております。DMOやつしろさんと一緒に、この事業を進めておりますので、その辺りも、また今日、ご出席の皆様方の関係、それから、お願い、そういったところも進めていながらというところで、出てくる際には、是非よろしく願いできればと思います。
- 会長：はい、ありがとうございました。
- 委員：今、ここに来てですね、このままの事業を、このままの事例ということをされることよりも、今については、健康交流のまちづくりをコロナ対策に変えるということじゃないかなと私は思っているんですが、そういう方向性の変更というのはお考えにならないでしょうか。
- 観光・クルーズ振興課：コロナ対策の方へというところかと思いますが、こちらの本来の目的でございますが、健康増進と地域の観光資源を絡めましてニューツーリズムの、体験型観光というところの、ひとつの目的がございまして、観光産業の発展を図るとというのが、大きなテーマでございます。只今、ご意見頂きましたとおり、今、このご時世ですね、コロナの方へというところがございますが、パッとお応えできる事が無いのが心苦しいのですけれども、そういったご意見があったということで、またDMOやつしろさんとも何かしら展開することができないかということも模索して行きたいと考えております。
- 委員：しばらくですね、やはり観光というのはインバウンドというのは、やはりなかなか今から1年、2年は厳しいのかなという風には思うんですけど、やはりあの、そういう自治体向けのそういう観光施設のサイトなんかもあるんですよ。無料で提供できる。そしてまた、インバウンドはまだ先かもしれないですけど、多言語のサイトなんかもありますので、そういうもののご紹介とかもいろいろさせて貰い、やっていって、まだ全国に普及はしてものではないんですけども、ガイドマップというプラットフォームがあります。そういったところもご紹介等させて貰いながら、国内の需要だったら、これから少しずつは見込めて行けるかなとか、そういうサイトあたりも色々用意してもらって、観光地の活性化につなげて貰えればなという風に思います。感想で申し上げます。
- 会長：委員がおっしゃったのは、コロナ後の話ですよ。急激にいきなり回復すればいいんですけど、戦略を持って行かなきゃいかんだろうということだと思いますけれども、ヘルスツーリズムも一つの売り物として、コロナ後に対策をとっていくということになるのかなとも、これに限られたものではないと思いますけれども、八代の温泉といえば日奈久でございますし、なんとか、コロナから元気に立ち直って頂きたいと考えておりますので、ご支援をよろしく願いしたいと思います。委員からの意見は、新しい地域のこれからの取組に使わせて頂きたいと思います。

## ■コミュニティビジネスによるしごと創生活活性化プロジェクト

- 委員：この事業の評価につきましては、「3. 地方創生に効果があった」と評価をされていますが、そもそもの目標値に対する実績値ということで見てもはあるんですけども、実績値だけを見ますと、年々、収入も増加しておられますし、来客数も増加しておられますし、「2. 地方創生に相当程度効果があった」というような評価でもいいのかなと思いました。
- 会長：はい、ありがとうございました。応援のコメントをいただきました。

—その他—

- 委員：事業の1番目の海外クルーズ船寄港を活かした観光・物産プロジェクトが紹介されました。で、今、会長の方からコミュニティビジネスの説明がありました。私が考えたのがこの2つのプロジェクトに共通しているものが、どうしても強く感じる場所があります。それは、最初、JTBの職員とか、DMOの職員の人が、専門的な技術・経験を生かして、このプロジェクトを積極的に推進をして、売り上げ、業績を残すと、これが評価としてどうだろうかということで、それぞれの専門家の方が評価されますけれど、私が今まで色々な事業を経験したときに、評価というところに、競争原理がどれだけ活かされているのだろうか、ということ強く感じた訳です。というのは、例えば先ほどJTBの職員の方、あるいはDMOの職員の力をつけるということが、非常にこれは理想としては高いんですけども、例えば私が正確な時期は頭がないんですけども、天草地域の人材、いわゆる地域を興す、ビジネスを起こすという時に、日航かどこかの社員の人が、そこに専従で登用される。そういう例がありました。そこは民間の企業を終わられた方が、天草の自治体が専門の人材を雇用する、そして、1年間、1千万なら1千万、あるいは1千5百万。そしてその人のいわゆる業績を評価して、あなたのこの事業に対する取組に対しては、天草の市としては1千5百万というような、あるいは1千万という、その給与、あるいは人件費を払ったわけでも、今年度の業績は上がってないので、次年度ではそれは8割に減額します。という、そういう評価というのが、天草あるいはもう少し大きく考えるならば、八代というこの自治体に対して、事業を起こして、そして地域の人たちの財源を活用する、人材を活用して、事業の成果を測定する。そして、その人に対する、八代市の自治体の1年間の評価額が8百万。ところが、2年目になったら、それが業績が非常に上がったから、8百万の1年間の人件費を50%上げると、そういうシステムが既に民間のそういう人たちの会社を起ち上げて、全国区で展開されておりますけれども、八代の取組は、現在、どういった考えの下で、行われておりますかという点について、ご質問させていただければと思います。
- 会長：事務局より回答をお願いします。
- 事務局：外部人材の登用については、地方創生の取り組みの中で示されております。八代市では特に外部人材の登用は行ってはおりませんが、過疎地における地域おこし協力隊、企業関係については、企業からの人材の登用など、次期総合戦略の中にも視点を向けて取り組みたいと考えております。
- 委員：なぜ、今のような質問をさせていただいたかということ、第三セクターの事業、ほとんど収益が上がらないです。上がらない原因は何かということ、事業自体に対する取り組み、あるいは人材、あるいは資源というのが活用されていないんじゃないかなと思うんです。そういう点で、もう既に会社を起こして、北海道から1自治体、あるいは東北から2自治体、そういうところでその会社への評価を会社自身がして、あなたはもう次年度から給与は半額だ、それでも、うちの会社の例えば八代市の事業の事業主体として引き受けますかというような形で、もう自分の所で評価しているわけです。なぜ第

三セクターあるいは公的なところが、いわゆる成果があがらないかということも原因振返りを自分たちです。そういうシステムが既にもう導入されて、実施されているので、今、おっしゃられたように、今後取り組んで行かれると思いますけれども、そういう先進的な、いわゆる取り組みについて、自治体の方でも少しは考慮していただければ有難いなと思って、質問させて頂きました。

○会長：ありがとうございました。成績によって次年度の報酬が決まるというようなやり方も面白いと思いました。事務局の方で検討するとのことでしたので、検討させていただければと思います。

○委員：深謀遠慮という言葉があります。今を深く計画し、遠い将来を考えると。コロナ終息まで、2年は十二分にかかると言われている。グローバル化の結果が、世界的な現在の状況になっている。先ほども触れておられましたけど、地味に足元を見つめて少しずつ進んで行くと。データばかりがすべてではないというところを、行政の方も考えていって貰いたいと。以前に、インバウンド、外国人観光客ばかり当てにすれば、危険性があるよって言ったことがあります。まさにそういうことで、足元を見つめて地味に、国内での企業なんかも発展するように努力して貰いたいなと思っているところです。

○会長：ありがとうございました。これで、意見交換を終了させて頂きます。

## 5. 閉会